



ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN WEEKLY REPORT

2017-2018

ロータリー:変化をもたらす

名古屋南ロータリークラブ

■承認/1991年3月8日 ■例会日/火曜日・PM6:30 ■例会場/名古屋マリオットアソシアホテル ■会長/入谷 直行 ■幹事/加藤 英敏 ■会報・雑誌・広報委員長/川瀬 悟
■事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル2202号 TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com

2017-18年度 国際ロータリー会長 イアンH.S.ライズリー

第 1247 回

2018年1月23日(火) 晴 第22回

～職業奉仕月間(1/27 ポールハリス命日)～

斉唱 それでこそロータリー
出席 会員 56名 (出席率算入人数 49名)
出席 45名 出席率 91.84%
前々回補填率 96.15% (1月9日分)
ゲスト 三重県知事 鈴木 英敬さん
体験例会 (有)たけ屋みずほ 佐藤 伸枝さん
ビジター 四日市 RC 佐野 貴信さん

会長あいさつ

会長 入谷 直行さん

皆さま、こんばんは。今日は、現役の三重県知事においでいただき、本当に卓話を楽しみます。また、ビジターの佐野さん、体験例会の佐藤さん、どうぞよろしくお願ひ致します。

最近、キャッシュレス化が進んでおり、私もカードでの支払いが多く、現金を使うのはニコボックスくらいかな、と。キャッシュレスの先進国はスウェーデンだそうです。スウェーデンへ行きますと、現金が使えないお店があり、タクシーでは現金をととても嫌がります。現金の管理や危険から現金を嫌うそうです。

GDPに対する現金の流通額を見ますと、日本は約20%、アメリカは8.1%、ドイツは3.9%で、スウェーデンはなんと1.4%です。スウェーデンではほとんど現金が動いていない位、キャッシュレス化が進んでいます。最近、フィンテック (Fintech) とか言いまして、Finance (金融) と Technology (技術) を組み合わせた造語ですが、金融ITが進みますと、ますますキャッシュレス化が進むという事で、私なんかはととてもついていけないと感じておりますが、これからは金融ITに注目していきたいと思ひます。



幹事報告

副幹事 安藤 修さん

1. 次回1月30日(火)は休会です。
2. 2月6日(火)は、4RC合同例会です。18時より16階アイリスにて開催されますので、皆さまご参加よろしくお願ひ致します。

ニコボックス

◆ 鈴木知事の卓話を楽しみにしています。

神田 広一さん 上田 正秀さん 杉山 隆秀さん
日下智重子さん 高橋 司さん 東山 直史さん
中村 勝さん 吉木 邦男さん 佐々木 暢さん
本多 利郎さん 三浦 隆さん 有川 英敏さん
中西 芳子さん 森田敏二三さん 犬飼りさ枝さん
田中 一雄さん 新原 尚さん 坂田 信子さん
鈴木 一博さん 安藤 修さん 伊藤 圭一さん
下村 徹嗣さん 川瀬 悟さん 入谷 直行さん
鈴木 清詞さん 牧野 好弘さん 三島多恵子さん
久米 伸治さん 坂本 晃さん 川辺 清次さん
猪村 美之さん 木下 福郎さん 木村 猛さん
朝比美和子さん 三浦 和人さん 福井 佳亮さん
小野 雅之さん 大平 明子さん 長尾 浅吉さん
江松 央統さん

◆ 年始本栖ハイランドにて、富士山の真ん中から太陽が出てくるダブルダイヤモンド富士の4Kカメラによる撮影に成功しました。機会ありましたらお見せします。

児島 徳和さん

本日合計 57,000円 累計 1,107,000円

体験例会紹介

■紹介者 日下智重子さん
本日は、私の大切な友人でもあり、昨年ご主人がお父様の呉服屋さんを継がれ、社長に就任されました。奥様の佐藤伸枝さんをご紹介します。佐藤さんは、着物の着方等のDVDを出されたり、着物を皆さまに広めるイベントとして着物ランチ会を開催されたり、また、倫理法人会でも大変ご活躍の方です。私は、自慢の女性の友人が何人かおりますが、その中でも際立って優秀な方でございます。

■有限会社たけ屋みずほ 佐藤 伸枝さん
瑞穂区でたけ屋みずほという呉服店を営んでおります。佐藤伸枝と申します。過分なご紹介をいただき恐縮しておりますが、日下さんにはプライベートでもとても良くしていただいて、今日は知事の卓話という事でぜひお邪魔させていただきたいと思ひまして参加させていただきました。皆さまの生き生きとした笑顔を見ていると、素晴らしい方の集まりなのだと感じております。今日はどうぞよろしくお願ひ致します。



外部卓話

■卓話者ご紹介

日下智重子さん

鈴木英敬知事は、日本で一番若くてハンサムな知事という事で、皆さまがよくご存知の大人気の三重県の知事です。ご公務の方ももちろんご活躍ですが、私が顧問をさせていただいております。台湾観光協会にも大変ご尽力をいただいております。台湾側からも常に厚い感謝の言葉をいただいている、私にとってもどれだけ感謝しても足りない知事でございます。他にも、奥様は大変有名なシンクロナイズドスイミングの選手でいらっしゃった事ですとか、最近では絵本も執筆され、イクメンとしても有名になっていらっしゃいます。

■三重県知事

鈴木 英敬さん

改めまして、皆さまこんにちは。只今ご紹介を賜りました、三重県知事の鈴木英敬です。今日は名南RCの卓話にお招きを賜りまして、心から感謝申し上げます。まず、簡単に自己紹介をしたいと思います。



私は、昭和49年8月15日に生まれて、現在43歳です。学歴は東京にある大学に行っていました。父方の本籍地が三重県の菰野町であった関係で、こちらの方から選挙に出さしてもらう事になったのですが、元々は、19歳まで兵庫県西宮市の甲子園球場から歩いて30秒位の所に住んでいました。小さい頃は頭の先から足の先まで縦縞だったのですが、今は三重県知事をやらせていただいておりますので、ドラゴンズの後援会の顧問をやらせていただいているというような事で、臨機応変、郷に入っては郷に従えという性格であるという風に、ご理解賜ればと思います。

平成10年に通産省へ入らせていただいて、安倍総理が最初に総理をされた時に官邸のスタッフとして当時は教育再生、公務員制度改革等で総理のサポートをさせていただきました。大体10年間位勤めた後、2009年に三重県から衆議院議員選挙に出まして落選した経験があります。これが私の人生を変えて、14万票対7万票のダブルスコアで負けたわけですが、その活動期間一年半位に個別訪問でお邪魔したのが大体7万件位で、どれだけ逆風でもやはり手を握った数、それが票に現れまして、努力は裏切らないという事を痛感させられました。その後、次の三重県知事選挙に当選するまで2年位ありました。借金も沢山あり、夫婦喧嘩も沢山しました。平成23年に三重県総選挙に出ささせていただき、知事にならせていただきました。その時は37万票対36万票

という1万票差で勝たせていただき、そういう中2期目もやらせていただいております。現在も1番若い知事ですが、歴史上も2番目に若い知事です。

家族は、妻が武田美保と言いまして、現シンクロ日本代表コーチの井村雅代さんの下、アトランタ、シドニー、アテネの3回オリンピックに出ささせていただいて、デュエットとチームで合計銀メダル3つ、銅メダル2つをいただき、一応女性アスリートとしては日本で一番沢山メダルを持っている一人です。子供は、長男が5歳、長女が1歳10ヶ月です。子供が生まれた時に、育児休暇っぽいものを取りました。私は特別職公務員なので勤務時間や休暇制度が無いので、育児に専念する為に公務の時間を空けるというのをやらせていただきました。2人とも取ったのは知事では初めてでありますし、元々取ったのも広島湯崎知事さんに次いで2人目でありました。育児に参画させていただき、『「パパ」はどうしてパパなの?』という絵本も執筆させていただきました。文章を私が書いて、絵はチキンラーメンのイラストを描いた方が描いてくれました。有難いことに、イクメンオブザイヤー、ベスト・ファーザー賞をいただいたり、今年からは、日経新聞の夕刊で月1回エッセイを半年間書かせていただきます。1月30日から毎月最終火曜日に全5回書かせていただきますので、見ていただければと思います。

色々な事をやらせていただいておりますが、私の一番重要な知事の責務の一つが、全国知事会の危機管理・防災特別委員長です。昨年も熊本、岩手、福島、宮城を全部回り、被災地の復興、防災への備え、そういう事の取りまとめをやらせていただいております。また、国民保護の担当もさせていただいておりますので、北朝鮮からミサイルが飛んできたら、全国知事会担当の先頭に立たなければならないという事をやらせていただいております。また、ダボス会議が行われておりますが、世界経済フォーラムのヤング・グローバル・リーダーズに選出をいただいております。

今日は、三重県の直近の話題と、今年三重県が特に力を入れていく事業承継のお話と、子ども関係の政策を中心にお話ししたいと思います。毎年1月4日は、総理を迎えて伊勢神宮へ参拝をさせていただきますが、今年の特徴は、今の閣僚メンバーと参拝するのが初めてという事もあってか、総理はサミットの伊勢神宮訪問時のエピソードを説明されていまして。また今回、野田聖子さんもお見えでしたので、沿道からも気楽に声が掛かったり、非常に暖かい雰囲気でした。1月2日に、四日市港にコスタネオロマンチカというイタリア船籍の外国客船、乗員乗客合わせて3000名位の船が来ました。6月からはダイヤモンド・プリンセスも入港する予定です。名古屋港も四日市港も物流の拠点ですので、物流をしながら合間で外国客船が来る事が、全体のインバウンドの新たなルートを作る事になると思っています。四日市港は特に伊勢湾岸自動車道まで直結する道路もできますし、新名神、東海環状の高速もできますので、ここをゲートウェイとして、愛知、岐阜、京都、奈良へも行っていただけるようなルートができてくるのではないかと考えており、観光の広域連携の大変重要な話題だと思っています。

最近、三重県の観光レクリエーション入込客数

が過去最多になったり、観光消費額も過去2番目になったりしています。三重県は入込客数を一番の指標にしているのではなく、観光消費額を一番に考えています。平成28年は5000億円を目標にしていたので、少し足りませんでした。これ位の良い状況になっております。観光は、食べ物、リネン系、運搬等の極めて裾野が広い産業です。そこにお金落ちるようになるという事が、地域全体の資金循環につながっていくと考えています。伊勢志摩地域は、サミット後、接客・給仕など観光業関係の有効求人倍率等の数値が伸びており人手不足ですが、そういう地域にお金が回っていく事を大事にしたいと思っています。

また、三重県は、日本橋に三重テラスというアンテナショップを持っています。東海三県では三重県だけです。ぜひ応援してください。オープン以来270万人以上に来ていただいております。単年では70万人に来ていただいております。首都圏にアンテナショップが56あり、大体5〜9番のランキングに入っています。

サミット後、国際会議が増えました。また、中経連の豊田会長のお陰で、今年の西日本経済協議会の総会を三重県志摩市の志摩観光ホテルでやっていただけの事になりました。また、サミット後、高校生で海外留学に行く子が一気に増え、サミットが次世代に影響を与える事ができたのは非常に良かったと思っています。

次に事業承継の話ですが、私たちの思いは、先輩経営者の方がせっかく作ってくれた地域の雇用、ブランド、のれん、技術、商品、サービス等をなんとか残したいという事です。三重県では、去年倒産した企業件数が76件で、この25年間で一番少ない数字です。しかし、休廃業した企業件数は338件で、倒産の4倍あり、その多くの理由が後継者難です。黒字であっても、良い技術があっても辞めてしまいます。そういう事が無いように、円滑に事業承継する為に、早く準備をしてもらいたいというのが私たちの政策の考え方です。帝国データバンクの全体の調査では、日本中の中小企業の経営者の年齢で一番人数が多いのが66歳です。一方で、中小企業庁の調査では、経営者の平均引退年齢は小規模事業者で70歳、中規模事業者で67歳ですから、この5年が勝負です。とりわけこれを中小企業庁では、2020年問題と言っています。これまで頑張ってきた経営者の皆さまが一気に退職しかねない。その時に事業承継の準備ができていなくて、せっかくの雇用や技術が奪われてしまう事があってはならないという事で、危機感を持って取り組んでおります。三重県の経営者の分布ですが、60代以上が全体の54%という状況です。日本政策金融公庫の数字ですが、「後継者が決まっている」が12%、「まだまだ決めるのは早い」が15%、「決まっていない」が20%、「廃業する」が50%です。法人経営者の3割、個人事業主の7割、ほとんどの人が辞めてしまう。廃業理由の3割が後継者難です。三重県では事業引継ぎ支援センターを作りまして、こういう相談を沢山受けております。津市の事業を愛知県の方が事業承継していただいたり、尾鷲市の事業を岐阜県の方が事業承継していただいたりというような事があります。事例の説明ですが、三重県鳥羽市の鳥羽一番街にあります、伊勢うどんがとても美味しいうどん屋さんです

が、社長の健康状態が悪くなったので辞めるとおっしゃっていた所、鳥羽一番街全体の女性社長さん達から、なんとか伊勢うどんの名物の味を誰かに引き継がないかと相談をいただきました。結果、後継者を探して、マッチングをし、のれんもレシピも設備もうまく残して譲渡契約をサポートし、名物の味を次世代にバトンタッチする事ができました。三重県津市の鰻屋さんと同じパターンで名物の味が復活した事もありました。EBOで従業員が株式を買って事業承継したケースもあります。三重県津市のロボット等の外装をやっている企業があり、 casting 用木型や、自動車パーツの発泡樹脂サンプルを作っていました。社長には後継者がいなくて、33歳の若手社員に事業引き継ぎして欲しいと思っていました。33歳の社員は会社を引き継ぐという事は負債も含め全て引き継ぐ事になるので極めて躊躇しておりました。しかし、我々も色々な相談に乗ったりした結果、社員が株式を買い取る形のEBOで承継しました。承継後の事業展開も三重県の工業研究所や産業支援センターが応援して、新分野へも進出して売り上げや利益を確保出来るようにしようとなり、結果、ロボットメーカーの試作品に採用され、新聞社主催の賞もとれたという事例もありました。また、第三者承継の事例として、三重県桑名市にあります、極めて技術の高い鉄工所は、黒字でしたが後継者難で辞めると言っていました。しかし、取引先の桑名にある自動車部品の会社社長が、それはもったいないという事でM&Aをして、自分の会社の37歳の社員を社長に抜擢し、その鉄工所に送り込みました。そのままでは無くなった技術を、存続させ、第三者側の会社にも良くて、人材育成にも繋がった事例です。三重県では、承継をする前に、経営者の皆さまに気づきを持ってもらう為の準備や、事業承継のタイミングに専門家を派遣したり、国の相続税や贈与税の納税免除や、県単独の事業承継に伴う様々な費用についての融資、承継後の新たな経営革新の支援、人材の支援。こういうようなパッケージで、この3月までに事業承継支援方針を作って、2017年度から2021年度を集中取組期間として、三重県内の事業承継に全力で取り組んでいこうと思っています。私たちは地域を支えてくださっているのは、中小企業の皆さま、小規模企業の皆さまだと思っていますので、こういう政策をきっちりやる事が、行政のトップの責務だと思います。私は、三重県株式会社の社長です。この企業を構成していただいている企業が、しっかりとその技術や雇用を守りきる為に力を果たすのが私の仕事だと思っています。

また、私は、全国の子どもの家庭養育推進官民協議会の会長をやらせていただいております。これは、特別養子縁組とか里親を推進していく官民の会議です。三重県でも約500人、様々な事情で親と暮らせない子がいます。全国では4万人います。そういう子どもたちの大半が児童養護施設にいます。三重県では8割、全国では9割です。施設も重要です。障害を抱えていたり、兄弟と一緒にいた方が良いケース等もあるので、児童養護施設も重要な役割を果たしますが、国連のガイドラインでは、基本的には家庭的な環境で、子どもたちは特定の大人から継続的に愛着が形成されるような環境で育つべきとされています。イギリスは7割が里親です。オース

第 1249 回例会 (2月13日) のご案内

外部卓話

赤煉瓦倶楽部半田 理事長 馬場 信雄 氏

ラリアは9割が里親です。1割、2割という環境は日本と韓国だけです。そういう事で、マッチングを進めたり、里親になっていただく人たちの啓発を一生懸命やっています。日本は血縁を重視するので、なかなか里親というのにいきにくいというのがあると思います。でも、色々な里親があります。その子の人生を18歳まで受け止める里親もいらっしゃいますが、週末里親や、夏休み等のイベント里親もあります。ロータリーの皆さまには、単純に児童養護施設の支援だけではなく、そこにいる子どもたちを少し引っ張り出してあげて、里親的に受け入れていただく事や、子どもたちと直接触れ合うような事業をしていただくと、子どもたちも非常に喜ぶと思います。残念ながら、児童養護施設にいる子どもたちは、職員が夜になったら帰ってしまったり、人事異動でいなくなったりと、特定の大人との愛着形成に極めて飢えています。そういう中で、自分の知っている人が週末だけでも相手をしてくれる、夏休みだけでも一緒に過ごしてくれる、そういう様な事がもっと広がっていけばと思っております。三重県では、全国初の取組で子ども基金(仮称)を作り、この4月からスタートする予定です。三重県の法人で資本金1億円以上、または、法人県民税を年間1000万円以上納めていただいている法人を対象に、法人県民税の超過課税をいただいております。普通の法人は3.2%ですが、0.8%上乗せして4%いただいております。それが大体10億円位になります。それを、今まで中小企業や環境や色々な所に使ってきましたが、その内12%を子どもの為だけに使うという基金を、全国で初めて作らせていただきます。介護、年金、医療、雇用は、企業の方々が応援して、安定的に財源を確保する制度がありますが、子どもたちにはそういうのがありません。今回、消費税の使い方を変えて幼児教育の無償化をやると言っていますが、それも幼児教育の無償化にしか使われません。子供たちの課題というのは沢山あります。貧困、家庭教育、幼児教育、子育て支援、不妊等沢山の課題がある中で、企業の皆さまにも応援していただいて、安定的に子どもたちのために財源を確保するという事を、やらせていただきます。赤字で大変だという企業からもらうのではなくて、一定の条件の企業に限りご協力いただく事になりますので、少しでも子どもたちの未来が開かれるような取組をさせていただく事になっています。

最後に、今年インターハイを三重県を中心に東海でやらせていただきます。平成最後のインターハイであります。インターハイは皇太子殿下の七次行事のひとつと言われ、お越しいただくことになれば、皇太子殿下として来ていただく最後のインターハイになりますので、緊張感を持ってやっていきたいと思っております。併せて、今年は皇太子殿下と雅子妃殿下の銀婚式でもありますので、お祝いの気持ちも込めて対応したいと思います。ちなみに銀婚式等の結婚記念日は欧米の風習ですが、明治天皇が銀婚式をお迎えになられた時に、日本でも皆で祝おうという事からスタートしていますので、今回皇太子殿下が銀婚式の年においていただくというのは、大変重い責任があると思っております。ぜひロータリーの皆さまにも、高校生たちの頑張りを応援していただけたらと思います。